



- 1 創立100周年寄稿
- 2 スピーチコンテストを開催しました
- 3 創立100周年記念事業募金寄付者芳名
- 3 募金に関するお願い
- 4 100周年編纂余語
- 4 明校ひとくちメモ



## 明治高等学校・中学校創立100周年によせて

学校法人明治大学 教務担当常勤理事  
飯田 和人 (政治経済学部教授)

明治高等学校・中学校が創立100周年を迎えた。その開校の年1912年は、明治45年すなわち大正元年であり、その後、昭和をはさみ平成の時代もすでに24年を経て、その星霜は100年を数えることになった。

この間、わが国は、二度の世界大戦を経験し、敗戦による焦土から立ち上がって高度経済成長をなし遂げ経済大国となるも、やがて絢爛たるバブル経済の時代を迎え、バブル崩壊後はおよそ20年間にわたる経済停滞に陥るなか、近年では東日本大震災、福島原発危機といった文字通りの世界史的な惨禍に見舞われて今日に至っている。

まさに激動の100年間であったと言えるが、つぎなる100年もまた同様であろう。今後、グローバル化によって世界がますます一体化していくなかで、さまざまな政治的、経済的、

社会的、文化的な軋轢が起こっていくことになる。そうした時代の激動のなかで、明治大学のみならず付属高等学校・中学校もまた過去100年と同じように生き残り、勝ち残りを図って発展していかなければならない。それが、この学校の基礎を築き、その発展を支えてきた多くの先人達に対する我々の責務なのである。そして、そのためには、いかに苦しくとも、つぎなる100年を見据えつつ自らを不断に変革し続けるしか途はない。

創設100年を迎えるに当たり、明治高等学校・中学校では、金子光男校長を先頭に全教職員が一丸となって、その記念事業を計画し実行に移しつつある。それら事業のいくつかを見れば、明治高等学校・中学校が明確に時代の動向と将来とを見定め、これにしっかりと対応していこうという積極的な姿勢をとっていることが良く分かる。まことに心強い限りであり、その挑戦の実りあることを心から願わずにはいられない。

## 創立100周年によせて



佐々木 仁美 (英語科2012年度新任教諭)

創立100周年の節目に本校に着任し、現在、中学2年生の英語を担当しています。私自身、母校の100周年を経験したことが、高校時代の思い出として強く印象に残っています。ところで、100周年のことを英語

ではcentenaryといいます。語源的にはお金のcent、長さのcentimeter、割合のpercentなどと共通する言葉です。次の1世紀はこれまで以上に英語によるコミュニケーションが大切な時代になると思います。そうした時代にむけて生徒の皆さんとともに英語を学び合えるような教員でありたいと思います。



塩原 洋二 (英語科2012年度新任教諭)

本校の100周年、本当に幸せなことだと思います。今年は何の年かと言われれば、真っ先にこのことが思い起こされることでしょう。

私が担当している中学一年の生徒は日々英語を頑張っています。毎回の授業は担当

の生徒のスピーチで幕を開けます。家族写真やテニスラケット、中には大切にしているアルバムを手にスピーチを行う生徒もいます。

ここではどんなに英語力があっても、大切なものがなければ英語は話せません。本校の節目を迎え、「大切なことは何なのか」ゆっくりと考えてみたいと思います。



石黒 祥樹 (保健体育科2012年度新任教諭)

本校は創立100周年という大きな節目を迎え、さらに躍進しようとしています。そのような記念すべき年に、私は本校での教員生活をスタートさせることができました。毎日生徒達と触れ合う中で、彼らの未来に思いを馳せながら、充実した日々を過ごし

ております。私がこのような日々を過ごせるのは、諸先輩方が築き上げてきた歴史によるものです。本校は調布移転、男女共学化を経て、今まさに過渡期を迎えています。これまでの歴史に恥じぬように、これからの歴史を築いていく一員として、大きな責任を感じながら、職務を全うしていきたいと思ひます。

## スピーチコンテストを開催しました

このたび本校では、創立100周年教育振興プログラムの一環として、6月12日（火）に第1回スピーチコンテストを開催しました。当日は明治大学からジトウィッツ・フィリップ教授（政治経済学部）、廣森友人准教授（国際日本学部）、カーリン・オマール特任講師（国際日本学部）を審査員としてお招きし、本校の鶴澤総明ホールにて盛大に催されました。

出場生徒は多くの生徒・保護者が観覧する中、堂々とスピーチを行い、各々のメッセージを懸命に英語で訴えました。観客からは各出場者がスピーチを終えるごとに、盛大な拍手が送られました。

このコンテストの出場者には、オーストラリアもしくはニュージーランドで実施される海外文化交流プログラムに参加するための奨学金が支給されます。



第1位に輝いた高校Ⅱ年E組 神馬春香さん

### 創立100周年記念 第1回スピーチコンテスト結果

- |    |        |       |   |
|----|--------|-------|---|
| 1位 | 高校Ⅱ年E組 | 神馬 春香 | ‘Get Along with the Global Society’     |
| 2位 | 高校Ⅰ年D組 | 岸本明香里 | ‘True Consideration’                    |
| 3位 | 高校Ⅰ年F組 | 柳父はるひ | ‘Do You Have Hope for the Future?’      |
| 4位 | 中学2年D組 | 伊藤さやか | ‘If You Have Nothing…Share Your Vigor!’ |
| 5位 | 高校Ⅱ年F組 | 笠井 里紗 | ‘Be Curious’                            |

## 羽ばたけ世界へ—— 第1回スピーチコンテスト開催

中学教頭 並 木 啓

2012年6月12日午後1時30分、鶴澤ホール。新たな扉が開いた。約千人の前に立つ10人の若者たち。壇上で、自分たちの思いのたけを熱く伝えた。とかく、日本人は人前で話すことが下手と言われる。しかも、日本人が苦手とする英語を使う。まるで経験したことのない、未知なることに48名の生徒たちが挑んだ。そのこと自体がとても尊い気がする。そして、最後まで勝ち抜いた本戦出場の高校生8名、中学生2名の勇気に改めて大きな拍手を送りたい。

世界は今、グローバル化が進み、経済的にはボーダーレスな社会に変貌しつつある。海外の人々と協力し、時に競争する時代がやってきたのだ。生徒たちが成人する頃には、中国、韓国、台湾、タイなどの優秀な若者と競い合うことになる。若いうちに、海外に出て異文化に触れることは、そうした点で貴重な経験になるに違いない。

第1回スピーチコンテスト参加者には、ニュージーランド、オーストラリアの文化体験プログラムに参加する機会が与えられた。この夏約2週間、出場生徒たちはホームステイをしながら、現地の学校に通うことになる。日本とは全く違う環境や文化に触発され、大きな刺激を受けることだろう。また、日本という国、日本人という国民を見つめ直すきっかけにもなるだろう。

創立100周年は大きな節目だが、それ自体に意味があるわけではない。これを機に、新たなことにチャレンジする。それでこそ、100年を祝う意味が出てくる。そして、これを今年だけに終わらせず、大きな樹木に育て上げていく。生徒と保護者と卒業生と教職員が一つになって。そんなコンセプトのもと、「鶴澤総明教育振興奨学金プログラム」が創設され、このコンテスト入賞者の男子2名、女子8名には多額の奨学金が支給されるのだ。海外に出たいと願う生徒たちには、経済的支援がある程度必要だ。このプログラムを礎に一人でも多くの生徒たちが、世界に羽ばたくことを切に願っている。



## 創立100周年記念事業募金寄付者芳名

2012.2.1～2012.5.31まで到着分累計 133件 1850万7000円

## 702万9000円

明治大学付属明治高等学校・  
明治中学校PTA殿

## 100万円

長堀 守弘殿  
松倉 康信殿

## 50万円

日高 憲三殿  
福宮 賢一殿  
明治大学付属明治高等学校  
2011年度卒業生保護者  
一同殿  
吉田 信行殿

## 30万円

明治大学付属明治中学校  
2011年度卒業生保護者  
一同殿  
山口 政廣殿

## 25万円

飯田 和人殿  
武田 宣夫殿  
橋口 隆二殿  
三木 一郎殿

## 20万円

(株)朝日工業社殿  
田中 等殿  
日本電設工業(株)殿  
宮下 守正殿

## 15万円

岡崎 安彦殿  
向殿 政男殿

## 10万円

明石被服興業(株)  
代表取締役社長  
河合 秀文殿  
坪 昌二殿  
粟野 哲也殿  
伊藤 光殿  
北林 噴造殿  
京王観光(株)殿  
小林 一光殿  
清水 秀夫殿  
関谷 芳久殿  
大六野 耕作殿  
武村 隆二殿  
福光 登志雄殿  
松崎 優子殿  
宮下 崇殿  
向井 真一殿  
山上 雅隆殿

## 8万円

大塚 達宏殿

## 6万円

安部 悦生殿  
荒川 利治殿  
井畔 杏里紗殿  
小笠原 英司殿  
後藤 朋智殿  
淵野 義尚殿  
匿名 4名

## 5万円

(有)アカマツ殿  
西垣 浩昭殿  
藤本 芳徳殿  
矢島 征洋殿  
匿名 2名

## 3万円

浅川 光殿  
飯田 賢殿  
板倉 和彦殿  
岩田 守弘殿  
上村 一郎殿  
宇田川 敬太殿  
大塚 啓史殿  
大西 恵子殿  
沖野 大輝殿  
長田 元子殿

加藤 幸子殿  
鎌倉 幸弘殿  
河崎 邦和殿  
倉田 武夫殿  
厨川 信浩殿  
小林 喜輝殿  
斉藤 楓実殿  
齋藤 柳光殿  
佐藤 潤殿  
眞田 瞳殿  
鈴木 響太殿  
(株)ダイマス殿  
高橋 智継殿  
田口 英明殿  
竹内 康人殿  
辻 嘉右エ門殿  
富田 靖雄殿  
中野 遥香殿  
中原 敏彦殿  
東浦 崇之殿  
平井 伸治殿  
福田 敏行殿  
藤田 佳野子殿  
舟橋 達彦殿  
細田 直樹殿  
前川 一郎殿  
松丸 幸太郎殿  
真野 孝志殿  
丸山 律夫殿  
道廣 英彦殿

柳下 陽輝殿  
山川 健児殿  
山田 隆正殿  
和田 伸一殿  
渡邊 健杜殿  
渡邊 博朗殿  
渡邊 浩巳殿  
匿名 23名

## 2万円

相原 靖憲殿

## 1万円

匿名 7名

## 5000円

市川 興廣殿

## 3000円

守田 満殿

通学用スクールバス  
ラッピング

東京ガス(株)

代表取締役社長

岡本 毅殿

野村ビルマネジメント(株)殿

野村不動産アーバンネット

(株)殿

明治大学付属明治中学校・高等学校  
創立100周年記念事業募金への協力のお願ひ

## 募集要項

## (1) 受付期間

2010年11月1日～2013年3月31日

## (2) 振込先

振込先は三井住友銀行です。専用の振込用紙でお振込ください。三井住友銀行の本・支店の窓口でお振込いただく場合、手数料は不要です(振込は窓口のみ。ATM、インターネットバンキングには対応していません)。

## (3) 募金金額

個人の方には1口3万円以上、法人・団体の方には1口10万円以上の御寄付をお願い申し上げます。なお、1口未満でのお申し出にも、喜んで承らせていただきます。

## (4) 銘板刻印

個人1口3万円以上、法人・団体1口10万円以上を御寄付頂いた方は、明治中学校・高等学校創立100周年記念事業募金寄付者銘板に御芳名を刻印(創立100周年記念事業終了後に校舎内に設置予定)いたします。

なお、銘板には御希望により、保護者の御芳名から御子息・御息女の御芳名に代えて刻印することができます。

## (5) 免税措置

個人からいただきました寄付金は、所得税の寄付金控除の措置を受けることができます。平成23年度の税制改正により、

個人が行った寄付については、所得控除に加え税額控除が適用されることになりました。この税額控除は、寄付する方の裾野を広げるために導入された制度であり、一定額までの寄付であれば、税額控除の方が確定申告により控除される金額は大きくなります。平成23年1月以降の寄付が対象で、どちらの控除を適用するかは、確定申告を行う際に選択できます。

①税額控除 寄付金額から2千円を差し引いた額の40%を所得税額から控除できます(ただし、所得税額の25%が上限)。

②所得控除 当該寄付金の額(所得の40%を限度とする)から2千円を差し引いた額を所得から控除できます。

## (6) その他

御協力頂いた方の寄付金額・御芳名は、明治大学広報に掲載させていただきます。なお、金額又は御芳名の掲載を辞退される場合は、寄付金お申込の際に振込用紙にてその旨お知らせください。

## (7) お問い合わせ先

高等学校・中学校事務室 募金係

【TEL:042-444-9102 FAX:042-498-7800】

メール: ko\_chu@mics.meiji.ac.jp

募金事務取扱時間: 8:30～16:30

(土曜、日曜、祝祭日及び年末年始等を除く。)

## 100周年編纂余語

### ＜明治中学校の校舎＞

本校は、駿河台から猿楽町、調布へと移転した。調布校舎の全貌は、第2体育館前に展示している航空写真と校舎模型によってわかる。猿楽町校舎は増改築を繰り返したので、全貌を示すことは難しいが、校舎図面と航空写真が何枚かある。ところが、駿河台にあった明治中学校は、明治大学講堂からの出火によって開校直前に校舎が焼失してしまい、校舎全貌を知ることができない。明治大学や公的機関を訪ねて駿河台校舎について調査したが、写真や図面は現存していないことがわかった。唯一の手がかりは、東京都公文書館に保存されている「明治大学附属中学校設立願」に教室配置図が添付されていることだけであった。

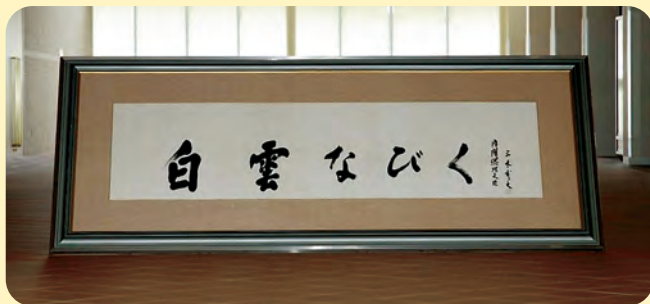
この事情を金子光男校長に話したところ、駿河台校舎の模型をぜひつくってほしい、と要望をよせられたので、本校出身の大学生に模型の制作を依頼した。大学生は快く引き受けてくれたが、模型の制作は手間がかかるというので、建築学科を志望する高校3年生に手伝ってもらうことになった。昨年度3学期の放課後、高校3年生は先輩の指導の下に模型づくりに従事し、卒業式を迎える前に駿河台校舎の模型は完成した。

現在、完成した駿河台校舎の模型は、調布校舎模型の隣りに展示している。右の文章は、駿河台校舎模型の説明用に添付したものである。



### 故三木武夫元首相直筆の書 図書館に設置

このたび、創立100周年事業の一環として、旧猿楽町校舎体育館に掲示されていた故三木武夫元首相直筆の書を新たに装丁し直し、図書館に設置しました。同書は校歌の冒頭である「白雲なびく」を大筆で書いた作品です。旧校舎の面影を残す作品を新校舎の要の一つである図書館に設置することで、これまでの歴史を礎に今後本校が更に発展していくことを祈願する思いが込められています。



### まぼろしの校舎

明治大学附属中学校は、「男子須要ナル高等普通教育ヲ為ス」ことを目的に、東京市神田区駿河台南甲賀町14番地（現在の明治大学リバティータワー右奥付近）に設置された。下に見える模型は、開校にあわせて建てられた校舎である。中学校の校舎は木造西洋館3階建であり、総坪数は316坪余（1045㎡）であった。しかし、これだけでは教室が不足するので、既設の明治大学校舎（西洋館2階建）2棟を改築して中学校の教室へ転用する予定であった。

1912年3月5日夜、明治大学講堂から出火があり、隣接して建築中であった明治中学校の校舎は類焼してしまった。校舎には足場が組まれていたが、あと2、3日で竣工となるはずであった。

類焼した3棟の校舎図面は現存しないが、明治大学附属中学校設立願（東京都公文書館蔵）に校舎配置図があったので、これをもとに本校出身の明治大学生が校舎模型を設計し、彼らの指導の下に本校の高等学校3年生が校舎模型の制作にあたった。

制作者

|                  |                     |
|------------------|---------------------|
| 明治大学理工学部建築学科     | 明治大学附属明治高等学校        |
| 滝澤 柁志（2008年度本校卒） | 3年 鶴貝 智恵（2011年度本校卒） |
| 柳原 啓志（2008年度本校卒） | 3年 大谷 剛（2011年度本校卒）  |
|                  | 3年 佐川 芳孝（2011年度本校卒） |
|                  | 3年 渡邊真之佑（2011年度本校卒） |

### 明校ひとくちメモ

#### 鶴澤総明校長が弁護団長？

第2次世界大戦が終わった後、極東軍事裁判が始まりました。そしてなんと本校の鶴澤総明初代校長が、日本側の弁護団長になることになりました。これはすごいことですね。敗戦後の大混乱の中、日本のために苦勞をされました。そのようなことで、長年、鶴澤校長を助けてこられた大橋留治教頭

が後任の校長となりました。また、そんなころ、硬式野球部が再発足いたしました。グローブやバットなどがまだまだ貴重な頃です。そしてあの有名な島岡吉郎氏が本校の監督となられ甲子園に行きます。元ジャイアンツの王さんのいた早実と東京代表を争っていたころの遠い昔の話です。



#### ●次号のお知らせ●

第5号は2012年12月下旬に発行予定です。